

発行 群馬県訪問看護ステーション
連絡協議会
群馬県医師会内
住所 〒371-0022
前橋市千代田町一丁目7-4
TEL 027-231-5311
FAX 027-231-7667
http://www.gunma.med.or.jp/houmon/
責任者 鶴谷嘉武

たいよう

訪問看護を知ってもらいましょう



医療法人 木暮医院

院長 木暮正美

日頃の診療のなかで、訪問看護を含め、在宅療養の利点をもっと多くの患者さんに知っていただきたいと思うことが儘あります。

一つには、訪問看護が認知されていない。この点は大きいと思います。制度そのものに対して、理解していただけていない。或は、訪問看護の存在も知らない方は、思っている以上に多いと考えられます。実際「家で過ごせるのですか？」と半ば驚きとともに、或は戸惑いとともにおっしゃる方は、少なくありません。そんな方達でも、在宅で過ごされると、必ずといって良い程「家でよかった」と言っ

ただけです。この辺りは、我々在宅に従事する者にとつて、喜びであり、また、もっと多くの方に在宅の良さを味わって欲しい、と思わせるところです。

より多くの方に、在宅でも出来る事、或いは在宅では出来ない事、をきちんと知っていただき、在宅の可能性を考えていただく事が必要かと思えます。

ただ、現状での生活、或は、家というものの在り方を見ると、在宅を考慮できない状況が多くなってきたのも事実です。生活の単位としての「家」、或は「家族」の存在そのものが、問われている時代

になっていきます。どうあるべきということでは有りませんが、現在が、家族よりも、個に重点を置く時代にはなっていると思います。その事の善悪を問題にするつもりは有りませんが、ただ、そんな時代になつていっていると思います。

現在の状況のなかで、在宅療養をする場合、家族を中心とした在宅のみでは無く、社会資源を活用する在宅へと向かわざるを得ないと思います。社会資源ということになると、現制度下では当然介護保険の利用も考慮しなければならぬし、かといって、医療から離れての、介護のみの在宅でも不十分なものになってしまう。そこをうまく繋げるのは、訪問看護ではないかと思えます。現にその役割を果たしてくれている訪問看護師さんも多くいます。看護の仕事だけでも忙しいなかで、コーディネート者の役割も割り振られることは大変だとは思いますが、在宅を過ごす患者さんのため、更に頑張りたいと思います。

病院との連携 パートI

「退院調整看護師としての地域連携」

高崎総合医療センター

高田 美和子

高崎総合医療センターでは、平成十八年度に退院支援を行う看護師が配置され、主に在宅療養支援を担当しています。

当初、地域の実情も分らない状況の中、西部支部の訪問看護ステーションを訪問させて頂き、色々なお話を伺いました。そのことが私たちにとって地域連携の第一歩でした。「もつと病棟訪問したい」、「主治医との橋渡しし、受診や入院相談の窓口になって欲しい」等、頂いたご意見を基に院内で検討し、退院支援システムの整備を図ってきました。特に、顔を合わせての退院前カンファレンスを充実させたいと思います、まず訪問看護師との連携を基盤に、そこから地域のネットワークを構築していけたらと考えました。その後4年が経過し、ネットワー

クも広がり、多くの方と連携させて頂いています。

退院支援で関わらせて頂くケースは、がんや神経難病の方、医療依存度の高い方が多く、病状に対する不安はもとより、介護者のこと、家族のこと、経済的なことなど様々な心配ごとを抱えています。医師もまた退院・在宅医療導入のタイミングや、在宅で大丈夫なのかということについ



高崎総合医療センター

て悩みながら退院の話を持ち出していることがあります。

在院日数が短縮している急性期病院で、治療は終わったものの体調が思うようではない状況で退院の話聞き、患者さんやご家族は危機的な感情

を持たれる場合もあります。少しでも不安が軽減し、安全に在宅療養へ移行できるように、多職種の方々と連携させて頂き、可能な限り退院前カンファレンスを行っています。患者さんやご家族と院内外のサポートメンバーが顔を合わせ、直接意見交換することで、より良いサポート体制の構築が可

平成22年度研修会報告

「苦しみに向き合うか」

訪問看護ステーションいせさき

宮下 勢津子

今回の研修はさいたま赤十字病院緩和ケア診療科部長の原敬先生による苦しみにどう向き合うか、聴くことの援助の意味についての講演でした。

その人らしさとは何か、入浴の例をとつても体が動かなくてもお風呂に入ってもらい、幸せと思う人いれば、自分では何もできないが、一人でお

西支部ステーションだより

訪問看護ステーション榛名荘

松原 玉枝

者の苦しみのサインに耳を傾けて聴いてくれる人がいるのが大切である、相手の話がネガティブであっても看護師はそのまま受け止め、言語化し答えてあげること、相手の思いを明確化することができ患者も満足し、この人は私の理解者だ、そこで信頼の関係が成立、援助関係性の構築、私たちの自信につながるのと講演の内容であった。

今回の研修に参加させていただき、私自身患者が訴えを表出しているのにどう対処したらよいか迷ってしまうことがあったが、原先生の講演を聞き患者の苦しみ、家族の苦しみをしっかり受け止めることだと思った。

お風呂に入れないなんてもう人間でないと思う人もいる、わがままな人であつても意固地な人であつても、その人らしきであること。その人らしく生きることを支えるとはどのようなことなのか、イメージはあるが感性は人に伝えられない、伝えるためには言語化しなければならぬこと。患者が主役であり本当の私は元気であるが今は動けない、そこに苦しみが生じる。現実の私を本当の私にしてあげるのが治療であり、医療者である。本当の私から現実の私に変わるのを支えるのが、ケアという援助を行う看護師の役割である。

援助的コミュニケーションについては、不眠との訴えがある患者の例をあげ、昼間運動量が少ないため夜寝られないのよ、でもどうしても寝られないならば先生に薬処方してもらいますかと私も返事を返してしまいが、それは患者を理解していないことであり、不眠の原因になるものは何なのかを聞いてあげること。患



平成18年9月に、総合ケアセンター榛名荘が設立され当ステーションも母体病院より移動となり施設内の一事業所として活動が始まりました。デイサービス、小規模多機能施設、グループホーム、ヘルパーステーション、高齢者住宅を併設し、居宅介護支援事業所を中心に各事業所がお互いに連携を密に持ちながら対応しています。訪問看護の需要も多く相談を受け対応しています。高齢者住宅とステーションが隣接しているため、入居者が「テレビのスイッチが入らないんだけど見てよ」と事務所を訪れる事もしばしばあり、アットホーム的環境で仕事をこなっています。毎年9月には一大イベント「感謝祭」を行ない施設利用者、地元住民の方と共に、楽しい一時を過ごし喜ばれています。当ステーションはパート2

名を含む看護師5人、理学療法士1名で、地元地区を中心に24時間体制で活動しています。利用者様は平均年齢82歳で、入院、長期入所等で月により変動はありますが、45人前後の利用者様にご利用頂いています。高齢に伴い終末期、在宅での看取りも増えてきました。老老介護が増えていますが「いつでも連絡がとれるから安心できるよ」と力強く介護をされています。今後も地域に根付く訪問看護を目指し開業医の先生、ケアマネージャー、各関連機関と連携を持ち、利用者様に満足していただける良いサービス提供ができるように努力していきたいと思っています。

訪問看護ステーションくろさわ

木村 恵美子

私達のステーションの看護師は6名です。4月から訪問看護の認定看護師を取得した看護師が、産休明けより復帰

しました。また、5月より理学療法士も1名所属となりました。

ステーションは、黒沢病院の一角にありますので、ご利用者様が入院した時に病室に顔を出す、「早く退院して、また皆に家に来てもらいたいよ」と言われます。また、入院中の御家族が、医師より重い病状説明を受けステーションに寄って胸の内を話し、御本人には見せられない涙を流していかれる方もいます。私達は、ただ聞いて受け止める事しかできません。

看取りの中でとても印象的だったTさんがいます。訪問は2週間でした。訪問1週間で点滴を拒否し、じつと痛みに耐えています。後で知りましたが、Tさんは2通りの死の迎え方があると言いました。それは、積極的な治療を受け最後を迎えるか、自然の流れに任せ痛みを耐えて死を迎えるか、自分は自然に身を委ねると、書き残してしまいました。ケア中もじつと耐えて何を問うても「大丈夫です」と

返答しました。重苦しい時間の中で、奥様の包み込む笑顔は緊張している気持ちを和らげてくれました。「看護師さんの笑顔は癒されるよ」と言われますが、看護している私達が癒され元気をもらっています。

ひだまり診療所

唐沢 由紀

こんにちは、ひだまり診療所です。

ひだまり診療所は、医師2名、看護師4名、事務2名の在宅療養支援診療所です。自宅で安心して生活したいと願う患者さんの思いを24時間対応の訪問看護や往診など職員全員で支援しています。

診療所は高崎市上中居町にあります。庭には四季折々の花々が咲き、メダカが泳ぎ、訪れる方や私達職員をも癒してくれています。といっても、手入れは主に先生や事務が…。私達看護師は毎朝の水やりや日課にしています。

訪問看護では、患者さんや

ご家族のお気持ちに寄り添い、安心して生活ができるよう支援する事を理念に、日々お宅にお邪魔しています。

その中でも、患者さんのお気持ち、ご家族のお気持ちに耳と心を傾け、精神的なケアに重点を置いて看護をしています。難しい時もありますが、そんな時はスタッフ皆で話し合いを重ね、医師の助言を参考に、それぞれの方に合ったケアを考えています。

患者さんの良き理解者になり、住み慣れた家で安心した生活が送れるよう、今後もお手伝いを続けていきたいと思っています。



庭に咲いています。
ゼフィランサス（玉簾：たますだれ）

お知らせ

研修会の予定

平成22年10月2日

場所 群馬メディカルセンター

内容 管理者研修

平成22年11月13日

場所 群馬メディカルセンター

内容 スタッフレ研修

編集後記

今回は、在宅医療にご尽力されている木暮先生に訪問看護師の役割を書いて頂き、地域に訪問看護ステーションがあることをもっとアピールする必要があると感じました。また、病院との連携が円滑になり訪問看護がさらに活性されるように、今回より病院との連携をシリーズ化したいと考えています。

在宅にスムーズに移行でき、安心して療養できるよう、かわる人は思いをひとつに協力し合い努力していきたいと思えます。

広報担当 浜辺